特集

地方創生フォーラム in SASEBO

3月10日（木）、アルカスSASEBOで「地方創生フォーラム in SASEBO」（佐世保市・佐世保地域経済活性化推進協議会主催）が開催されました。ゲストは佐世保にゆかりのある著名な起業家・経営者の3人。司会・進行にフリーアナウンサーの川田裕美さんを迎え、朝長市長を交えて佐世保の可能性やこれから必要な人材など「佐世保の地方創生」を考える熱い議論を交わしました。今回の特集では、そのトークセッションの内容をお知らせするとともに、フォーラムの総合プロデュースを手掛け、翌11日にもトークイベントを開催した本市出身のプロデューサー・菅賢治さんのお話などを紹介します。

原田（はらだ） 泳幸（えいこう） 氏

1948年、佐世保市生まれ。外資系企業であるアップルコンピュータ社長、日本マクドナルドホールディングス会長兼社長などを経て、2014年からベネッセホールディングス会長兼社長、ベネッセコーポレーション社長を務める。

髙田（たかた） 明（あきら） 氏

1948年、平戸市生まれ。74年、家業の「カメラのたかた」に入社。86年に分離独立して佐世保市内に「たかた」設立、99年に「ジャパネットたかた」へ社名変更。2015年に社長を退任し、A and Liveを設立。代表取締役を務める。

澤田（さわだ） 秀雄（ひでお） 氏

1951年、大阪市生まれ。80年、旅行会社（現在のエイチ・アイ・エス）を、98年には航空会社（現在のスカイマークエアラインズ）を設立。2010年にハウステンボスの再建を任され、初年度から黒字化を達成。現在ハウステンボス社長、エイチ・アイ・エス会長などを務める。

佐世保の良さ そして課題とは

原田　佐世保に帰って来るたびに、人間の原点みたいなものを思い起こさせられます。例えば、両親が「社員の皆さんに感謝せんば」って言うんですね。東京で社長をやっていると、自分が業績を作ったように思ってしまうんですが、ふっと忘れたものを思い起こさせてくれる、ふるさとは、やはりいいものですね。

髙田　これまで「何で佐世保にこだわるんですか」と何度も聞かれてきましたが、一番はやっぱりイカがおいしいところですよね（笑）。とにかく食べ物がおいしいところと、九十九島の景色。九十九島の美しさは地元にいると意外と気付かないんですが、視点を変えてみたら、いっぱい素敵なものがあるんじゃないかと思います。

原田　九十九島といえば、昨年家族と一緒に遊覧船に乗ったときに、高校生のころによく無人島で海水浴をしていたことを思い出しました。そのときの素晴らしい景色は今も全く変わっていませんね。

澤田　食事はおいしいだけじゃなくて、値段が安いですね。僕は東京にも住んでいますから、特にそう感じますね。

川田　良いところがたくさんある佐世保なんですが、改善点や、もう少し良くしていったらいいという課題はありますか？

原田　世界で活躍しているプレーヤーやアーティストもいるのに、これだけ素晴らしい佐世保を全国に、全世界に発信しようというエネルギーが欠けている。もっと身の丈以上に発信してもいいような気がします。その方法については髙田社長に聞いてみたいですね。

髙田　さすがにテレビショッピングみたいに値段を付けることはできませんからね（笑）。ただ、すごく良いものって、皆さんの周りにもあるんです。自分たちで伝えよう、良いものがあるんだということを自分自身が自覚する、ということじゃないかと思うんですよね。ハウステンボスが経営難からあれだけ回復したのも、澤田さんの良いものを伝える力なんですよね。

澤田　佐世保には何といっても良い港がありますから、海外の方は非常に来やすいと思います。問題点としては、やっぱりアクセスが悪いこと。ちょっと人気が出ると飛行機が満席になるし、海外に行こうと思っても、長崎―上海間は週に2本しか飛んでいない。そしてビジネスをするにはマーケットが少し小さいですね。

佐世保のこれからの可能性

澤田　佐世保に可能性はまだいっぱいありますよ。一番マイナスであり、一番プラスなのは、東京から一番端、西の端にあるということ。例えばニューヨークやワシントンから見て西の端に当たるのはシリコンバレーなんです。東京の文化が伝わってこないことで、逆に独自の発想ができますから、新しいものを作るには非常にいい環境だと思います。

原田　私は佐世保を離れて初めて、その良さが分かりました。例えば会社で働いている社員は自社の欠点は分かっていても、その強さを意外と忘れているものです。でも、その強さを取り戻す、らしさを取り戻すことが経営の基本です。佐世保でも、まずは佐世保の価値をしっかりと認識して、その価値をさらに高めることが大切だと思います。

髙田　たくさんのものはいらないと思うんです。順番に佐世保の良さを伝えていけばいいですよ。あるもの一つを全国的にアピールしていくと、それに付帯してたくさん雇用が生まれていくと思います。宣伝するんだったら予算をテレビショッピングに使ってください、と市長にお願いしたいですね（笑）。佐世保はいいですよというのを、全国に流すんです。われわれ3人が出てもいいですよね。

朝長　行政をやっていると、テレビショッピングを市が使うということはなかなか思いつかないですね。非常に良い話を聞きましたので、できたら髙田社長にも出ていただきたいですね（笑）。

3階席まで満席となった会場

澤田　人がやっていないことを発信するとみんな取り上げてくれるんです。ハウステンボスではロボットがフロントを務める世界初のホテルをオープンさせました。世界中からマスコミが来て、今や世界の知識人のほとんどが、このホテルが佐世保にあるということを知っています。やり方次第で佐世保もハウステンボスも可能性があると思うんですね。いかに佐世保の良さにプラスで、何か新しい想像力を付けていくか、ということだと思います。

（次のページに続く）

求められる人材、スピード感の秘訣

創造力や人間力を育てる教育が重要

夢を語り続ける上司がいないと部下は育たない

スピード感を持ってやると失敗の回復も早いんです

司会・進行を務めた
フリーアナウンサーの川田裕美さん

これから必要とされる人材

原田　今の子どもが社会人になるころには、6割の人が今存在していない仕事に就くといわれています。今後、人工知能やロボットが普及し、世の中が急速に変わっていく中で、知識吸収型じゃない、新しいことを考える創造力、人間力を育てる教育が極めて重要になると思います。

澤田　ハウステンボスでは佐世保で若い人を募集しても、今や足りない状況です。人がいないとサービスも落ちてしまいますから、今、最先端の技術やロボットを活用して生産性を高めようとしています。今度ハウステンボスでは園内を全自動のバスが走って、ロボットが店員のレストランがオープンします。

朝長　現在、佐世保の若者の7割が市外に就職していますが、5割の若者は市内での就職を希望しているんです。ハウステンボスのような新しいことに挑戦している企業で働きたいと思う人がもっと現れてもいいんじゃないかと思います。

原田　現在の、生涯一つの会社に勤めるという雇用形態にも問題があると思います。同時に2社、3社で働くような柔軟な働き方やライフスタイルが進んでいくと、人材の流動性も起こってきて、人材不足の解決にもつながるのではないでしょうか。今の常識をゼロベースで考え直すことが、地方創生の「まち・ひと・しごと」づくりにもつながると思います。

髙田　私はどういう人を採用するかより、どういう人が上に立つかが重要だと思うんです。こういう意義があって、仕事をしてるんだという「夢」を常に語り続ける上司がいないと、部下はそれ以上の人に育たないと思うんです。私には、一緒にやろうよ、がんばろうよと夢を語ってきたという自負があります。そうするというつの間にか、大きな企業になっていましたね。

原田　そうですね。子育て、教育改革の議論は進んでいますが、多様な人材を生かす経営者の意識改革が今一番遅れているような気がします。髙田社長のように、勇気をもって後継者にバトンタッチされるというケースは本当に珍しい。多様な人材が働くグローバル企業はどんどん世界進出して、トップが入れ替わっても成長を続けます。経営者が何をやるかで人は生きるんだということです。

澤田　ハウステンボス歌劇団の劇団員を育てる学校では、最初は普通だった女の子たちが、入学から1年経つと見違えるように成長するんです。彼女たちが将来の夢を持っているから、そして育てる側に厳しさの中にも愛があるからです。もちろんその人が一番大切ですが、指導や教育次第だと思いますね。

失敗から学ぶ経験する

原田　日本人は全員英語を習っているのに話せない人がほとんど。なぜか。それは失敗が恥ずかしいからです。仕事でもそう、間違ってもいいから行動を起こすことから全て始まるんじゃないかと思います。失敗は成功への通り道ですから。

澤田　失敗には必ず原因がありますから、その原因を変えるといずれ成功につながっていきます。中国の言葉に「失意泰然」という言葉がありますが、失意のときほど元気にという意味で、苦しいときこそ明るく、何くそと思って明るく元気にやることが大切だと思います。

髙田　一生懸命やった失敗は、それだけ自分も成長します。そしてその努力の分だけ自信になります。一生懸命にやったといっても、人から見たら3割の力しか出していない失敗もあると思います。失敗の価値を自分が分からないと、歳を重ねても成長しませんよ。

澤田　人材教育は難しいと思いますが、若い人がそうやって経験を積んで、自信を持って育っていけば、会社にとってもプラスです。能力や目標は人によって違うものですが、何のためにこの仕事をしているのか、どうしてこの仕事が世の中や地域のためになるのか、そこを自覚してもらうような教育を心掛けていますね。

朝長　3人はすごいスピード感を持って仕事をされていますが、その秘訣を聞かせていただけませんか。

澤田　スピードは全てのビジネスの基本。スピード感を持ってやると、失敗したときの回復も早いんです。3カ月掛かって1回失敗するより、1週間で1回失敗すれば2カ月くらいで成功につながる可能性も高いですから。

原田　私は午後6時以降に通常業務をしないようにしています。限られた時間の中で判断して行動することを継続すると、スピードと質が上がります。私は毎朝4時に起きて仕事をし、5時からジョギングをします。そして社員に指示を出した後、出社しています。社員を動かすんですから、社員より前に働かないと。

髙田　朝の4時に起きるなんて、原田さんのすごいところだと思います。なかなか真似できませんね。私は経験を積み重ねることでスピード感を養ってきました。継続して夢を持ちながら、今の瞬間を一生懸命生き続けること。その中でスピード感も直感も、失敗を成功に導く知恵も、全て自分のものにできると思います。

（次のページに続く）

今の若い人たちにチャレンジ精神を

澤田 新しいことにチャレンジする際に大事にしているのはオンリーワンのことをやるか、ナンバーワンのことをやるかということです。テーマパークは新しいことをやらないと飽きられますから。

原田 チャレンジするときに大事なのは成功するまでやり続けることです。また、ビジネスでは顧客にとっての価値をどう高めるかということが基本。そういうことを真剣に突き詰めて考えると、新しい価値の創造が生まれます。マクドナルドで始めた100円コーヒーも周りに反対されましたが、今やコンビニでも当たり前になりましたね。

髙田 新しいことって今まで経験の無いもの、全く新しいものを考えがちですが、今あるものに何か加えるだけでも新しいものに生まれ変わります。ベースの原点がぶれると企業は支持されなくなりますよ。

澤田 僕は、佐世保は他とはちょっと違う、非常に面白い雰囲気があると思います。その中で夢を持った若い人がどんどんチャレンジしていけば、全国で通用する、世界で通用するような人が生まれてくる可能性はあると思います。髙田さんみたいな人が10人くらい増えたらいいんじゃないかと思います。

髙田 欲張っても地方創生はうまくいかないと思うんですよね。何か一つでもあれば、それが話題になって輪が広がっていく。やり方次第だと思いますよ。佐世保から単に人口が無くなるなんてないですよ。われわれがさせません。

朝長 佐世保は明治22年に海軍ができたことをきっかけに、大きくなったまち。全国から裸一貫で出てきて、一生懸命になって仕事を作り、飛躍を遂げた人たちが多かったんです。今の若い人たちにもそのようなチャレンジ精神を持っていただければ、そこに働く「しごと」ができ、「まち」ができ、「ひと」ができるということにつながっていくんじゃないかと思います。今日はお三方にチャレンジ精神旺盛な話をお聞きして、皆さんも「やらんばいかん」という気持ちになられたことと思います。私も素晴らしいお話を聞けて感動しました。本当にありがとうございました。

イベントの様子を動画で公開！

3月10日の「地方創生フォーラム（2時間5分）」、11日の「菅賢治さんによるトークイベント（2時間4分）」の2本の動画を市ホームページで公開していますので、どうぞご覧ください。

菅賢治さんにインタビュー

唯一無二のまち佐世保 もっとPRを!

地方創生フォーラムの総合プロデュースを務めた菅さんにフォーラムを終えた感想や佐世保への思いなどを伺いました。

フォーラムに関わったきっかけは？

生まれてから19歳まで佐世保にいましたが、そろそろ還暦というときになって、佐世保のことを何も知らないんじゃないかって思ったんです。佐世保にはよく帰ってきているんですが、仲の良い高校の同級生たちと話していて、微力ながら何か恩返しができないかと思ったのが最初ですね。ちょうどこのフォーラムをするという話が出て、演出・プロデュースという形でお手伝いをさせていただきました。

終わってみて感想を教えてください

関東に住んでいてジャパネットの通販番組で九十九島の映像が背景に使われていたり、ハウステンボスが特集されたりしているのを見ると、たまらなく嬉しいんです。3人は僕にとって英雄のような存在。佐世保というキーワードがあったからこそ、今回のフォーラムであの3人が集まれたんだと思います。そういう意味でも意義のあることだったと思います。聞いていただいた皆さんの反応も良くて、本当にやってよかったですね。

佐世保の魅力とは？

佐世保みたいにこれだけ海が身近にあるところって珍しいと思います。海と山が近くて、景色はきれいで、人はのんびりしていて、アメリカの人もたくさん歩いていて。外に出て思いましたが、他のまちで佐世保に似たところって見当たらないんです。フォーラムでも言われていましたが、その良さをもっとPRしないと駄目だと思います。

佐世保でこれからやりたいことは？

地方創生って「人づくり」が一番大事なんだと思います。高校を卒業して離れてしまった身で言うのもなんですが、佐世保を若い人が憧れるようなまちにしたいですね。今考えているのは、一流の人たちを呼んで、佐世保で世界に発信できるようなイベントをするということ。ただやるだけじゃなくて、3年なら3年と決めて、高校生や大学生と一緒にやりながら、エンターテインメントのノウハウを教えたりしたいと思っています。佐世保にエンターテインメントを学べる場ができて、全国から佐世保に若い人が集まるようになったりするのも夢ですね。僕が恩返しできるのはそういうことかなと思っています。

（取材日　3月11日）

1954年、佐世保市生まれ。代表的な番組は日本テレビの「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!」「踊る!さんま御殿!!」など。日本テレビの制作局長代理などを歴任し、退社後は「BRAIN BROTHER GAASU ENTERTAINMENT」を立ち上げ、現在フリーのプロデューサーとして幅広く活躍中。ことしから本市の「地方創生コーディネーター」を務める。

3月11日に開催されたトークイベント「笑いで佐世保に恩返しする企画　笑いで築く、佐世保の未来！」の様子。テレビ業界での実体験に基づく示唆に富むお話をたくさん聞くことができました

特集についての問い合わせ　政策経営課　☎24-1111